

奈の良

第13号

天理市・桜井市

- 総本山長谷寺1 p
- お抹茶・お食事 長谷路1-2 p
- 天理駅前広場コフフン2 p
- 山の辺の道3-4 p





ゆっくり歩きながら町の魅力を見つける旅

奈良県北部に位置する天理市と桜井市は、奈良市から電車でのアクセスが便利で、駅からゆっくり歩きながら旅ができるので、ハイキングが好きな方や町並みをゆっくり散歩したい方、旅の途中にゆったりした時間を過ごしたい方におすすめです。

今回は、桜井市にある年中様々な花が楽しめる花の御寺「総本山長谷寺」と由緒ある有形文化財の家屋でゆっくり時間を過ごせる、お抹茶・お食事「長谷路（はせじ）」、天理駅前の複合施設、「天理駅前広場コフフン」を紹介します。

総本山長谷寺

年中様々なお花が楽しめる花の御寺

長きにわたる歴史を持つ総本山長谷寺は、年中様々なお花が楽しめるお寺で、たくさんの方々が参拝や花を見に訪れています。

長谷寺までは、近鉄長谷寺駅から参道を歩くこと約 20 分。目の前に見えたのは満開を迎えた桜でした。春色に染まった長谷寺は、春の爽やかさと共に、厳しい冬の寒さをしのいできた強い生命力を感じさせます。

長谷寺は「花の御寺」と呼ばれており、年中様々な花を楽しめます。春は桜や牡丹、石楠花（しゃくなげ）、夏は紫陽花、秋は紅葉、冬から春にかけては梅や椿など、境内を彩る花で季節ごとに違う長谷寺の顔を楽しむことができます。特に、牡丹がきれいな時期は長谷寺を訪れる方が多いそうです。



また、長谷寺は紅葉の時期にもその美しさが増します。私が長谷寺を訪れたのは春だったので紅葉は見られませんでした。が、昨年の秋に長谷寺を訪れたフランス人の国際交流員ヴェロニクさんにそのときの写真を見せてもらいました。境内を包むように彩る紅葉は長谷寺をより神秘的な雰囲気になります。私はまだ長谷寺の紅葉を自分の目で確かめたことがありませんが、写真でも十分にその美しさが伝わってきます。今年の秋は長谷寺を彩る紅葉をぜひ見に行きたいと思いました。

花を見ながら長きにわたる奈良の歴史を散歩してみるのはいかがでしょうか。



- ・所在地：〒633-0112 奈良県桜井市初瀬 731-1
- ・アクセス：近鉄「長谷寺駅」から徒歩 20 分
- ・サイト：総本山長谷寺 <https://www.hasedera.or.jp/>



紅葉の時期の長谷寺の写真(ヴェロニクさん撮影)

お抹茶・お食事 長谷路

由緒ある有形文化財の家屋で過ごすひととき

長谷寺の参道沿いには、由緒ある有形文化財の家屋を活用したお店があります。お抹茶・お食事「長谷路（はせじ）」は、玄関先から家屋の長い歴史が感じられます。玄関の門から中に一步入ると目の前には素敵な庭が広がります。

案内してくださったのは、今回の取材を快く引き受けてくださった山田さんです。大正時代の中頃に建てられたこの民家は、平成 12 年に「本屋」「茶屋」「門」「はなれ」「土蔵」「塀」の 6 棟が文化庁登録有形文化財に指定されました。



山田さんによると、昔このあたりは、伊勢街道とってお伊勢参りの参道の一本道だったこともあり、各地から参拝に行く人々にぎわっていたそうです。江戸時代末期からここでお酒の販売をしていて、今も長谷路のすぐ隣の「山田酒店」では、長谷の地酒を販売しています。

また、花で有名な長谷寺を訪れる方も多いので、お店は年中お客さんで賑わっているそうですが、特に牡丹の時期である春と紅葉の時期である秋には日本人のお客さんだけでなく、韓国や中国からのツアー客やヨーロッパ、アメリカからの個人旅行者など、たくさんの外国人のお客さんが訪れるそうです。

2階には有料で公開している「版画土蔵館」があり、今回は特別に案内していただきました。土蔵館には、棟方志功（むなかた しこう）、谷中安規（たになか やすのり）、大野隆司（おおの たかし）、宮崎 敬介（みやざき けいすけ）など、有名な版画家の作品や本が展示されていました。版画とは思えないほど繊細な版画を見て驚きました。この版画だけを見に来るお客さんもいるようですので、お茶やお食事だけでなく、この空間目当てにここを訪れる人が多いのではないかと思いました。

山田さんにお話を伺ってから、お抹茶と和菓子をいただきました。古民家という普段はなかなか味わえない静かな和室で過ごすひとときが、ここまでの、そしてこれからの旅に憩いの場を与えてくれるような感じがします。特に、中庭を眺めながら楽しむお抹茶は旅をもっと贅沢で特別なものしてくれます。

長谷寺参道沿いの、由緒ある古民家でゆったりとしたひとときを過ごしてみるのはいかがでしょうか。

- ・所在地：〒 633-0112 奈良県桜井市初瀬 857
- ・アクセス：近鉄大阪線「長谷寺駅」より徒歩約 10 分
- ・営業時間：11:00 ～ 16:00
- ・定休日：不定休（4月・5月・11月は無休）
- ・サイト：お抹茶・お食事「長谷路（はせじ）」



<http://www5.kcn.ne.jp/~haseji21/>
<http://nara-haseji.com/>



天理駅前広場コフン

駅前で楽しむにぎわいの場

JR・近鉄天理駅からすぐのところには、複合施設「天理駅前広場コフン」があります。天理駅を訪れたとき気軽に立ち寄ることができる場所です。

コフンは、天理市にある数多くの古墳をモチーフにデザインされた広場です。野外ステージでは様々なアーティストの公演や企業のPR、文化の発信、屋内では英語教室やヨガ教室、ものづくり等が行われ、駅前広場では、天理市や奈良県産の新鮮な野菜や特産品を販売する「コフンマルシェ」が開かれるなど、コフンの活用を通じて人と人との交流を深めることや町を元気に明るくすることなど、町の活性化にもつながっています。

「インフォ & ラウンジコフン」には、観光案内所や「Park Side Kitchen」というレストラン、自転車の販売や修理、レンタルを行っている専門店があります。観光案内所では奈良の観光に関するパンフレットや書籍などを自由に見ることができます。

取材でコフンを訪れたのはお昼時でしたので、「Park Side Kitchen」でランチメニューを注文してみました。新鮮な奈良県産の野菜でつくられたヘルシーな食事がとても美味しかったです。



「コフンショップ」では、お箸などの木製品や靴下、古墳をモチーフにしたマグネットや小物、天理市や奈良県産の野菜、お茶など、天理市や奈良県内でつくられたものを販売しています。お店の方によると、天理産のものが約7割で、天理市内の養護学校や福祉施設の方々がつくった商品も販売しているそうです。特に、外国の方には、お箸や干支（えと）をモチーフにした置物などが人気だそうですので、帰りにコフンショップに寄ってちょっとしたお土産を買ってみるのも良さそうです。

旅の途中に立ち寄った駅前で、にぎわいの空間を楽しんでみるのはいかがでしょうか。



- ・所在地：〒 632-0016 奈良県天理市川原城町 803
- ・アクセス：JR・近鉄天理駅よりすぐ
- ・サイト：天理駅前広場コフン



<https://cofufun.com/>

万葉集の歌人と一緒にたどる山の辺の道

昨年、約30年間にわたる平成の時代が終わり、5月から令和の時代が幕を開けました。「令和」は、「美しい調和(仏語でBelle Harmonie)」という意味で、出典は日本最古の和歌集である万葉集です。元号が日本の古典から引用されたのは初めてで、これまでの日本の元号の出典は、すべて中国の古典でした。

万葉集は、天皇から庶民まで、様々な人々が詠んだ和歌が4500首余り収められている日本最古の歌集です。

全20巻で構成される万葉集がいつまとめられたのかは不明ですが、奈良時代(西暦710年～794年)の末期に成立したと言われています。その当時、現在の奈良は大和(やまと)と呼ばれ、日本の都が置かれていました。万葉集の中で奈良の地名が詠まれている歌は約900首あり、奈良は万葉集のふるさとであるとも言われています。

今回は、万葉集で歌人が詠んだ奈良の美しい自然を歩きながら、万葉集の歌を3首紹介し、日本の歴史についても簡単に紹介します。

山の辺の道は、桜井市から奈良市まで続く日本の最も古い道で、万葉集の歌人が詠んだ地名が今でも数多く残っています。

今回は、神の宿る山ともいわれる三輪山がある桜井市から天理市までのコース約16キロを歩きます。



桜井駅から約15分歩くと、「仏教伝来の地」と書かれた碑が立っている山の辺の道のスタート地点に到着します。古代、このあたりは、大阪からの川をさかのぼってくる舟の終着地であり、いくつかの古道の交差点であったため、栄えていました。

海外の使節もここで発着しており、6世紀には、百濟(くだら)の聖明王(せいめいおう)の使節が仏像と経典を献上し、神々を信仰している日本に仏教が伝来したと言われています。

ここから大神(おおみわ)神社に向かいます。大神神社は、日本最古の神社の一つで、三輪山の神である大物主大神(おおものぬしのおおかみ)を祀っている神社です。大物主大神は国造りの神様として信仰され、第10代の天皇である崇神天皇(すじんてんのう)(生没年不詳)の時代に疫病が流行した際には、疫病を鎮めたと言われています。

三輪山の大樹や草など、自然すべてが神体として敬われてお



奈良盆地の眺め

り、大神神社には本殿がないのが特徴です。

境内には、奈良盆地を見晴らすことができる大美和の杜(おおみわのもり)があり、特に桜が咲いている時は、人気のスポットです。また、展望台からは、大和三山(やまとさんざん)を見ることができます。大和三山とは、天香久山(あまのかぐやま)、畝傍山(うねびやま)、耳成山(みみなしやま)のことで、国の名所に指定されています。万葉集の中でも詠まれているので、紹介したいと思います。

「かぐ山は畝火(うねび)ををしと耳梨(みみなし)と相(あひ)あらそひき神代(かみよ)よりかくにあるらしいにしへもしかにあれこそうつせみもつまをあらそふらしき」

万葉集1-13

この歌は、日本の第38代天皇である天智天皇(てんじてんのう)(西暦626年～671年)が詠まれたものです。

天智天皇と弟の天武天皇(てんむてんのう)が、万葉集の中で13首の歌を詠んだ額田王(ぬかたのおおきみ)をめぐる恋争いをしていたそうで、この歌は、その三角関係について詠まれたものだという説があります。

天智天皇は、大化の改新(たいかのかいしん)に貢献した人物として知られており、大化の改新では、天皇を中心とした政治を設立したとされています。また、「大化」は、日本の最初の元号でもあります。



額田王の歌碑

「うま酒 三輪の山 あおによし 奈良の山の山の間にかくるまでに 道のくまいつもるまでに つばらにも 見つつ行かむをししばも 見さけむ山を 情なく 雲の かくさふべしや」

万葉集1-17

大神神社を離れて、畑に囲まれた風情ある道を歩くと、この歌が刻まれている歌碑が見えてきます。

天智天皇は、667年に飛鳥（現在の奈良県明日香村）から近江大津宮（おうみおおつのみや）（現在の滋賀県大津市）に遷都しました。この歌は、額田王が新しい都へ移動した時に詠んだ歌だそうです。歌碑の位置から見える円錐形の三輪山の眺めは素晴らしく、奈良を懐かしむ額田王の気持ちに共感します。また、古代の人々は三輪山に対して愛情を持っていたことも感じられるような気がします。

額田王の歌碑から少し歩くと、崇神天皇陵に到着します。池に囲まれた自然の丘のように見えますが、実は、お墓です。このような大規模なお墓は古墳と呼ばれています（皇族のお墓の場合は、陵墓と言います）。巨大なお墓を造るためには、大量の人力が必要なので、古墳は、労働力の集中と大勢の人々を管理できる社会の発生を表しています。古墳の周りには埴輪（はにわ）が置いてあり、古墳の中には武器や装身具などの工芸品があるため、有力者のお墓であるとされています。古墳時代は、崇神天皇凌のような前方後円墳が出現した西暦3世紀後半から7世紀末ごろまでで、首長を中心とした政治権力が成立した時代だと考えられています。崇神天皇は原始的な国家を統一して、三輪山麓を中心とした政権を確立したとされています。実在の人物かどうか不明ですが、国内統治を進めた人物だとされており、神武天皇（じんむてんのう）と同様に、御肇国天皇（はつくにしらすすめらみこと）と称されて、第1代の天皇だという説があります。

田園風景が楽しめる道を進むと、今回、最後に紹介する歌碑が見えてきます。



崇神天皇陵

「衾道（ふすまぢ）を 引手（ひきて）の山（やま）に 妹（いも）を置きて山路（やまぢ）を行（い）けば 生（い）けりともなし」

万葉集2-212

これは柿本人麻呂（かきのものひとまる）（生年不詳～没年708年?）が詠んだ歌です。

柿本人麻呂は日本文学の代表的歌人の1人とされ、歌聖と呼ばれています。万葉集には柿本人麻呂の和歌が約450首収録されてい

ます。この和歌は引手の山に妻を埋葬してから、山の辺の道を歩いて帰る時に詠まれたものだそうです。愛しい人が亡くなった時の気持ちは時代や国を問わず変わらないものだと思うので、この歌を見て、日本の古代の柿本人麻呂の気持ちを身近に感じました。

その歌碑を離れて、山に沿う道を歩き続けると、いよいよハイキングコースのゴールである石上神宮（いそのかみじんぐう）が見えてきます。



柿本人麻呂の歌碑

石上神宮に入ると、放し飼いされているきれいな鶏が何匹もいて、驚きました。鶏は石上神宮では「神の使い」と考えられており、敬われています。また、石上神宮は日本の最古の神社の一つで、重要な遺物が収蔵されています。

山の辺の道は奈良市まで続きますが、今回はここから歩いて、天理駅に向かいます。石上神宮から天理駅までは歩いて約30分かかります。道中に天理教の教会本部を見ることができます。また、駅に向かう時に、飲食店や八百屋、お土産屋さんなどが並ぶ天理の本通り商店街を通るのがおすすめです。天理教関連の店もあって、趣がある通りです。

奈良は日本の始まりの地とも言われています。山の辺の道を歩くことで、日本の最も古い神社を訪れ、古代の史跡も見ることができます。そして、万葉集の和歌を読みながら、昔から変わっていない奈良の美しい自然風景を觀賞し、古代の人々を身近に感じることができます。また、無人販売所では美味しい野菜や果物が買えます。歩いた時に、ブロッコリーやデコボン、はっさくなどをたくさん買ったため、リュックサックが重くなって大変でしたが、家に戻ってから新鮮で美味しい野菜と果物を食べて、ハイキングの疲れをすぐに忘れることができました。

日本の歴史と文化にふれたい方は、山の辺の道を歩いてみてはいかがでしょうか？



な ら 「奈の良」とは

こんにちは。

私たちは奈良県国際課に勤務する国際交流員です。

奈良県と海外の交流を深める架け橋となるべく、日々、国際交流業務に従事しています。

『奈の良』は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たちが奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。



編集後記

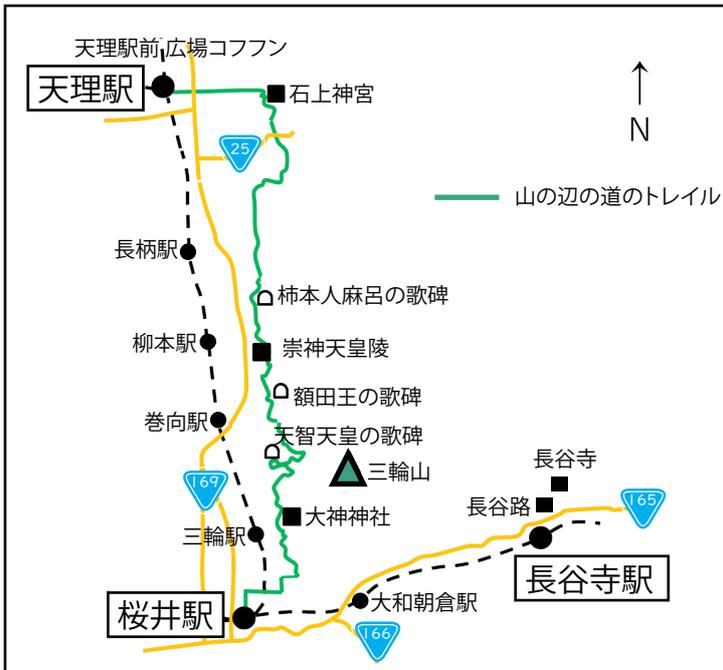
南 炫汀 (写真左)

今回の旅先である天理市と桜井市は、駅からのアクセスがとても便利なところ。特に、長谷寺への参拝や山の辺の道のハイキングに訪れた観光客にとっては、アクセスの良さも旅の魅力の一つでしょう。季節の花を楽しんだり、特別な空間でお茶を飲みながら癒しの時間を過ごしてみるのはいかがでしょうか。ぜひこの町の魅力をご堪能ください！

ドニ=ラロック・ヴェロニク (写真右)

山の辺の道には歴史が長い社寺が数多く残っていて、古代から変わっていない風景を見ることができます。日本の歴史についてさらに知ることができ、奈良県の美しい自然も楽しめて、大変感動しました。日本の心にふれたい方は、桜井市から天理市までの山の辺の道を歩くのがおすすめです。

天理市・桜井市

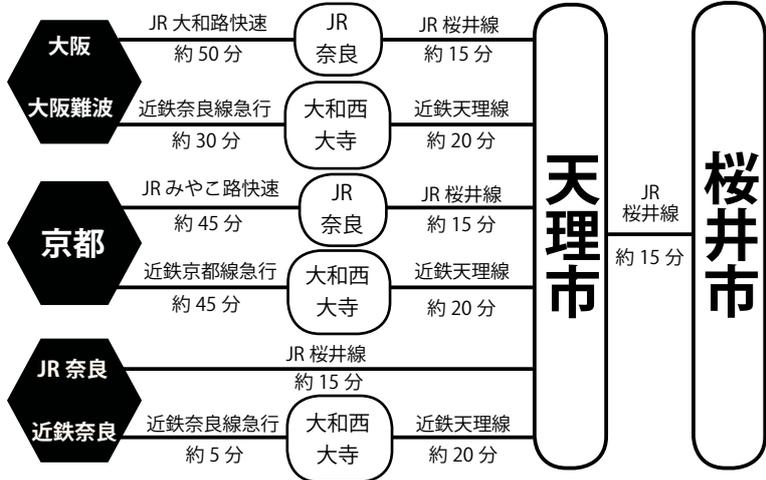


Special Thanks

今回の取材にあたり御協力いただいた総本山長谷寺、お抹茶・お食事長谷路、天理市役所、天理市、桜井市の方々にお礼申し上げます。

アクセス

電車を利用する場合



車を利用する場合

大阪から：約 1 時間
京都から：約 1 時間 20 分 } 天理まで
奈良から：約 30 分

天理から桜井まで：約 20 分

『奈の良』

発行元：奈良県知事公室国際課

発行：令和 2 年 6 月

本誌に関するご意見、ご質問等はこちらへご連絡ください。

〒 630-8501 奈良市登大路町 30 奈良県知事公室国際課

TEL：0742-27-8477

FAX：0742-22-1260